

JIHSの関わる感染症インテリジェンス

統括庁・厚労省
関連中央省庁

政策課題



情報要求



意思決定

医療対応
公衆衛生対応
対抗医薬品(MCM)
のR&D

情報収集
分析
評価

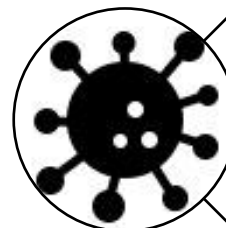
感染症
インテリジェンス

統合・翻訳
コミュニケーション



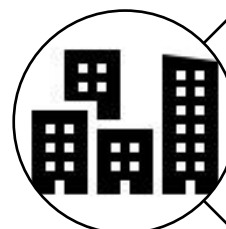
感染症の発生情報

- サーベイランス
- 公式：公衆衛生当局、研究所等
- 非公式：医療機関、アカデミア、メディア、SNS等
- 積極的疫学調査



感染症に関する情報

- 病原体の*in vivo/vitro*研究
- 臨床的知見
- 疫学的知見



社会的インパクトを含む評価のための情報

- 医療・公衆衛生（サーベイランス、検査体制）
- 社会インフラ
- 政治・経済等社会情勢

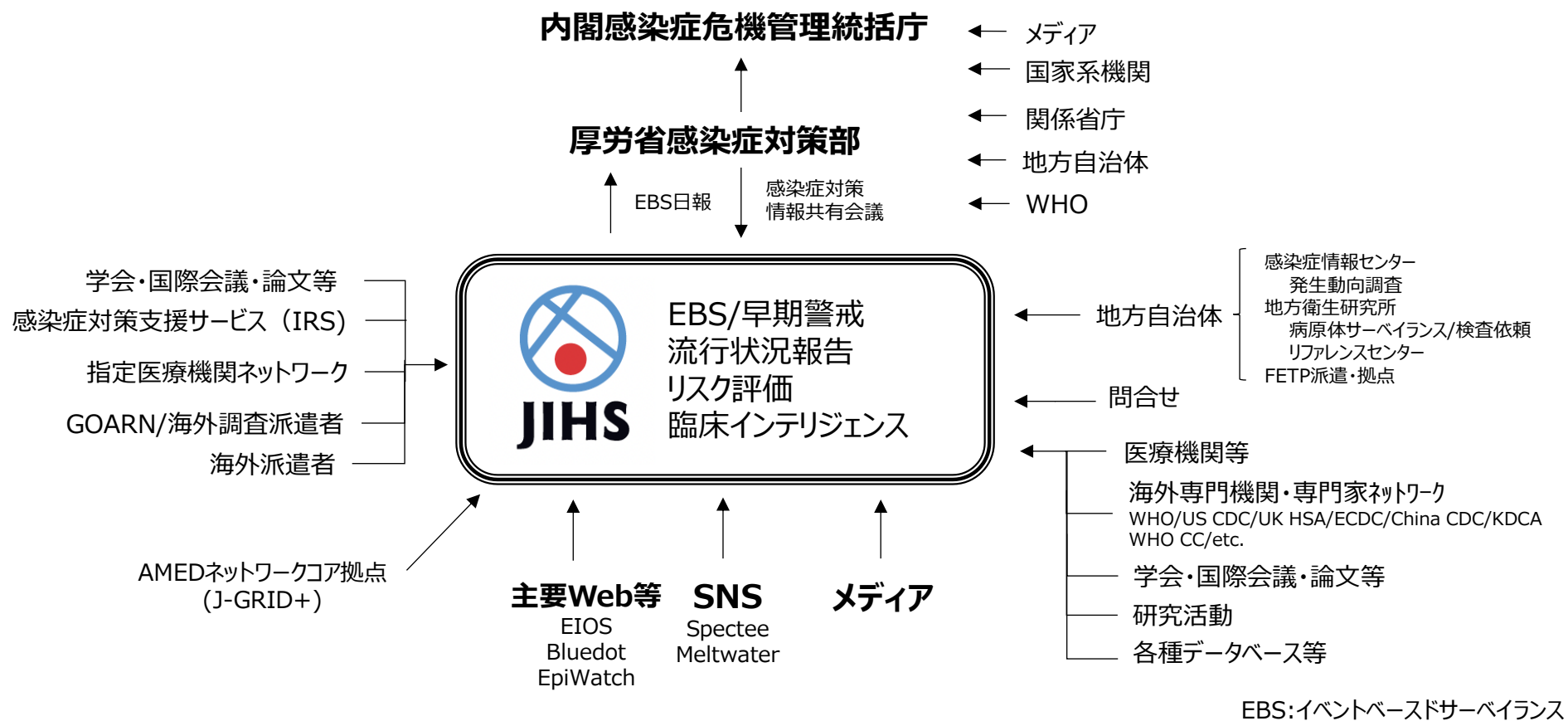


研究開発に関する情報

- 開発標的
- 開発パイプライン
- 開発要求

感染症情報集約体制（感染症インテリジェンス・ハブ）

- 適切な情報管理の下、関係省庁と密に連携しながら、**広範で深い情報収集と集約**を進め、JIHSの専門家の専門的知見を最大限に活用した評価・分析を**タイムリーに提供する**組織的なインテリジェンス体制の構築を図る。
- 組織統合により、**より広範な関係機関**からの情報収集、疫学調査、病原体解析から臨床研究及び公衆衛生研究までを総合的に実施し、**多面的で統合された知見の提供が可能**になる。



情報収集・分析・リスク評価機能（Disease Intelligence） におけるJIHSの取り組み

- 迅速なデータ収集・分析体制の構築
- 情報集約体制の拡充
- 国内外のネットワーク形成
- コミュニケーションの強化
- インテリジェンスの人材育成

感染症に関する情報提供



国立健康危機管理研究機構
感染症情報提供サイト

ENGLISH



[トップページ](#) > サーベイランス

サーベイランス

📄 ポスト

📱 シェアする

📬 LINEで送る

感染症発生動向調査週報



病原微生物検出情報



感染症流行予測調査

感染症サーベイランス情報のまとめ・評価

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/index.html>

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）届出の動向

2025 年 12 月 23 日更新版

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）届出の動向
2022 年 1 月 1 日～2025 年 11 月 30 日（2025 年 12 月 10 日現在）

国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 応用疫学研究センター
感染症サーベイランス研究部

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（streptococcal toxic shock）
かつ劇的で、発病から数十時間以内にショック症状、多臓器
などを伴う、致死率の高い感染症である。

図3. Lancefield 分類別（A 群、B 群、G 群）年齢群別 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）届出数（n=4,449 診断日:2022/1/1 - 2025/11/30（2025/12/10 現在））

※Lancefield 分類が複数の届出は除く

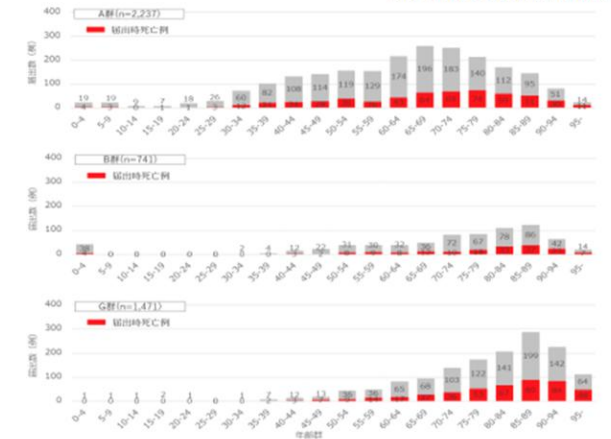
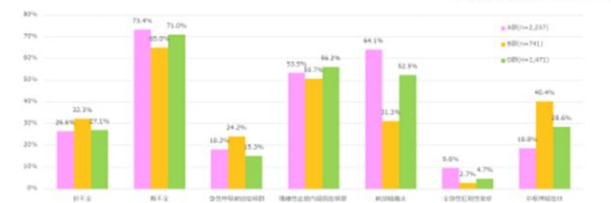


図4. Lancefield 分類別（A 群、B 群、G 群）劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）の届出に必要な臨床症状の割合（ショック症状を除く）（n=4,449 診断日:2022/1/1 - 2025/11/30（2025/12/10 現在））

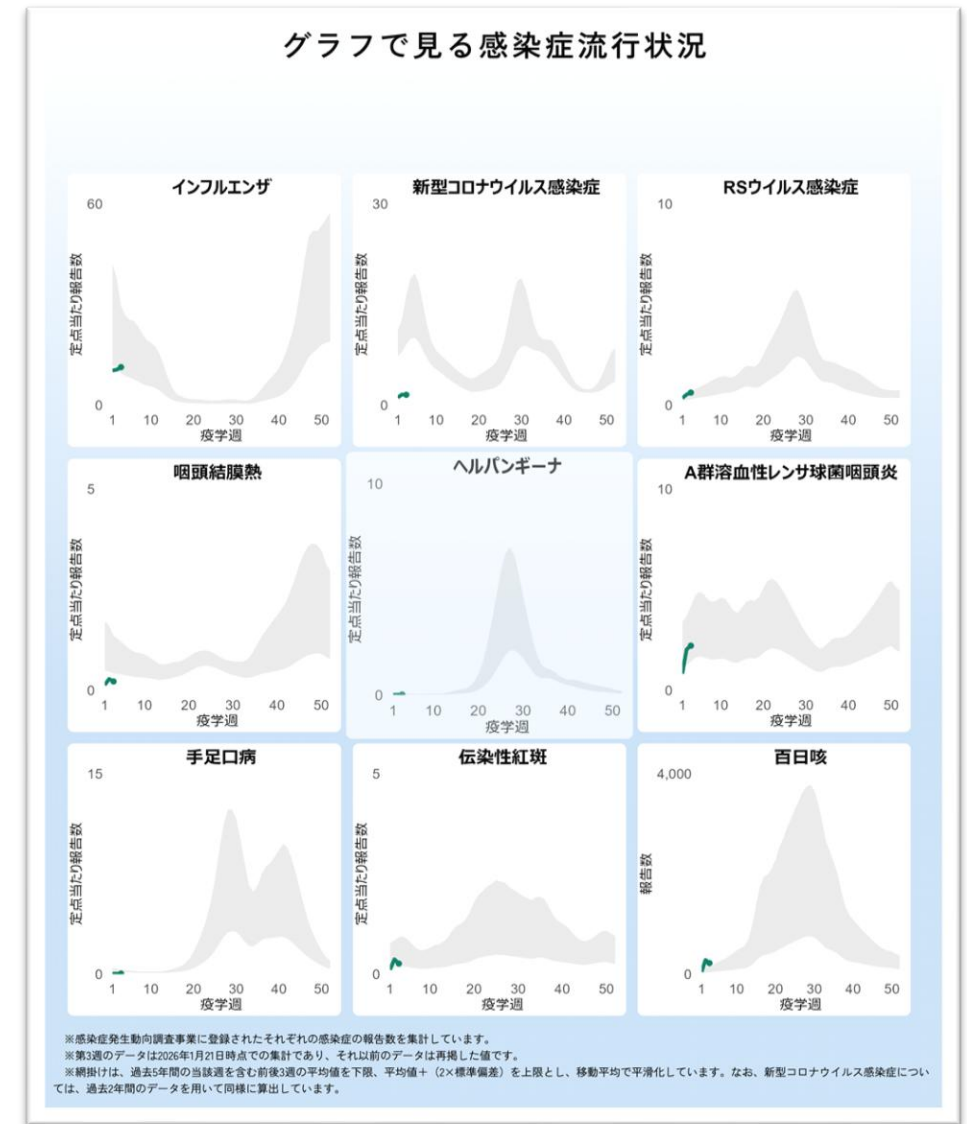
※Lancefield 分類が複数の届出は除く
※臨床症状は複数回答あり



感染症に関する情報提供

The screenshot shows the homepage of the JIHS Infectious Diseases Information Site. At the top, there is a header with the JIHS logo, the text '国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト', and navigation links for '感染症を探す', 'サーベイランス', and 'マニュアル類'. There is also an 'ENGLISH' link and a 'MENU' button. Below the header, a message states: 'サービス利便性向上及び運用効率改善のため、URLのメンテナンスを行いました。お気に入りなどの登録をされている方は、リンクの貼り換えをお願いします。' The main content area features a large blue banner with the text '国内外の感染症の発生状況をお届けします' and '当サイトは、国立健康危機管理研究機構が運営する公式サイトです'. To the right of the banner is the 'IASR' logo. Below the banner is a 'SEARCH' section with a search bar and buttons for 'フリーワード検索' and '検索'. There are also buttons for '疾患名から探す' and '感染源や特徴から探す'. Below the search section is a 'PICKUP' section with three featured items: '病原体検出マニュアル', 'エムボックス', and '新型コロナウイルス感染症'. Each item has a corresponding image and a link icon.


<https://id-info.jihs.go.jp/>



<https://www.jihs.go.jp/content10/030/Dashboard.html>

感染症に関する情報提供：リスク評価

- 感染・伝播性、重症度などから国内の公衆衛生対応への影響が懸念される新興・再興感染症について、科学的知見をまとめ、国内の対策に資するリスク評価を実施
- JIHS発足後、以下の6報を発出
 - 鳥インフルエンザH5N1（2025年4月）
 - 麻しん（2025年4月）
 - 百日咳（2025年5月）
 - STSS（2025年9月）
 - SFTS（2025年9月）
 - ニパウイルス感染症（2026年1月）



国立健康危機管理研究機構
感染症情報提供サイト

感染症を探す サーベイランス マニュアル類

ENGLISH MENU

ニパウイルス感染症の発生状況とリスク評価

印刷 シェアする 印刷で読む

国立健康危機管理研究機構
2026年1月30日時点

1.ニパウイルス感染症の概要

ニパウイルスはパラミクソウイルス科ヘニパウイルス属に属するエンベロープを持つマイナス鎖1本鎖RNAウイルスである。南アジアから東アジアの熱帯・亜熱帯地域に生息するオオコウモリ（フルーツバット）を自然宿主とし、オオコウモリとの直接の接触、オオコウモリの体液に汚染された果実、野菜やその未加熱の加工品の摂取、オオコウモリから感染したブタやウマとの接触によりヒトに感染するほか、家庭内や医療機関内での患者との濃厚接触によりヒト-ヒト感染を起こす。

感染後4-14日程度の潜伏期間ののち、発熱、頭痛、筋肉痛などの非特異的な症状で発症し、進行するとめまい、眠気、意識障害などの神経学的症状が出現するほか、呼吸器症状を合併するという報告もある。複数の抗ウイルス薬の使用報告があるが、有効性、安全性の確立した治療やワクチンはない。致死率は40%から75%と報告されるが(WHO, 2026)、地域によってサーベイランス能力、医療体制が異なることで症例の把握状況に差があり、軽症例が見逃され致死率が過大評価されている可能性があることに注意が必要である。

WHOは、ワクチンや治療薬がないこと、致死率が高く、ヒト-ヒト感染を起こしうることから、研究開発を優先的にすすめるべき、パンデミックを起こしうる「priority disease」の一つとして挙げている(WHO, 2024)。

2.ニパウイルス感染症の発生状況

ニパウイルス感染症は1998年から1999年にマレーシアおよびシンガポールで初めての発生が報告された。この流行ではオオコウモリからブタにウイルスが伝播し、ブタでの呼吸器感染症の流行を介して、ヒトへの感染伝播が起こったと考えられている(Chua, 2003)。

以降フィリピン、バングラデシュ、インドで発生報告があり、とくにバングラデシュ、インドでは2001年以降毎年のように発生報告がある。マレーシアとは異なり、バングラデシュ、インドからはオオコウモリの体液に汚染されたナツメヤシの樹液、果実、加工品の経口摂取による感染事例が多く報告されている。また、家庭内での患者との濃厚接触、医療機関での患者の診察に伴う医療関連感染も報告されている。一方で、ヒト-ヒト感染による大規模な市中感染はこれまで報告されていない。また、ヒトでの発生報告がない国も含め、ニパウイルス抗体を保有するオオコウモリが報告されており、オオコウモリが生息する地域においては、地域の状況に応じた発生リスクが存在すると考えられる。

日本国内では、これまでニパウイルス感染症患者の報告はない。また、国内でオオコウモリが生息する地域は小笠原諸島及び南西諸島に限られおり、ニパウイルスを保有しているオオコウモリの報告もない。

3.リスク評価

- ニパウイルス感染症は南アジア、東南アジアにおいて、オオコウモリ、ブタなどの感染動物との接触、その体液で汚染されたナツメヤシなどの果物、野菜、およびその未加熱の加工品の摂取、家庭内、医療機関での患者及びその体液への接触を介して感染する。そのため、南アジア、東南アジア諸国においてこれらのリスク行為が伴う場合の感染リスクは高い。